

AV情報スクランブル

Audio Visual Information

12月 Scramble

主要記事

国立近代フィルムセンター「映画製作専門家養成講座」開催
 メディア教育開発センター「教材研究ワークショップ『未来の学校図書館』」

2000年度「日本教育工学会・冬の合宿研究会」
 「第44回日本紹介映画・ビデオコンクール」入賞作品

A V 情報

国立近代フィルムセンター「映画製作専門家養成講座」開催

国立近代美術館フィルムセンターでは、総合プロデューサーに日本映画撮影監督協会理事長の高村倉太郎氏を迎え、標記講座を開催する。世界に誇る日本映画の技術的伝統を継承すべく、各講座の講師の代表的な担当作品を三五ミリフィルムで上映し、受講者と質疑応答をまじえながらディスカッションを行う四日間の集中講義を同センターにおいて行う。

1・期日

平成一三年二月六日(火)～九日(金)

2・応募資格

映画・テレビ・ビデオ製作など、映像製作の諸分野で助手等の現場経験を有するか専門学校などで実習経験がある人。

3・講座の内容

「白黒映画とカラー映画」「新人監督との仕事」「日活ロマンポルノへの挑戦」「川島雄三の世界」

4・受講料 無料

5・募集定員 一〇〇名程度

6・応募締切 一二月二日(火)
 7・問い合わせ

〒一〇四 〇〇三一 東京都中央区京橋三 七 六 東京国立近代美術館フィルムセンター 映画製作専門家養成講座事務局 電話 〇三 三五六一 〇八二三

研究会情報

メディア教育開発センター「教材研究ワークショップ『未来の学校図書館』」

文部省大学共同利用機関メディア教育開発センターでは、標記ワークショップを次の要領で開催する。

1・趣旨

大学等の授業で用いることのできるすぐれたメディア教材を、実際に体験し、研究する。このワークショップでは、イギリスの「英国教育コミュニケーション工学エージェンシー(BECTA)」、(旧称、全国教育工学カウンシル、NCEIT)が大英図書館(British Library)と共同で開発した『未来の図書館』(Libraries of the Future, 1996-97)を対象にする。将来の学校図書館(初等中等教育、継続教育)におけ

『博物館が学級崩壊を救う』総合的な学習のための博物館活用方法
 『村上義彦著、ホイックス、二〇〇〇年五月刊、A五判、二〇七頁、一九〇〇円（税別）』

本書は、埼玉県博物館における教育事業に長年携わってきた著者が、学校と博物館との連携によって、学級崩壊に揺れる子どもたちの学びを豊かなものにしたという願いから書かれている。

これまで学校が子どもたちを博物館につれていくのは、遠足の途中での立ち寄りや社会科見学の一つとしてが大半であった。だがこれからは授業の一環として、学芸員と教員が緊密に連携して、はっきりとした学習目的をもった利用が重要であると著者は説く。

博物館は、子どもたちの学びの「密室化した学級からの解放」をすすめ、生き生きとしたものに変える可能性をたくさん持っている。その博物館を利用して、「指導から助言の教育へ」と教師たちがその役割を切り替えていくならば、学級崩壊という現象を乗り越えて、新たな時代の教育を切り開いていける



のではないかという。

とりわけ新しくスタートした『総合的な学習の時間』で求められているすべての方向性は、「ことごとく博物館を学校教育に活用すること」で達成されることであると、具体的な活用例を体験学習を中心に多く紹介している。

だがしかし問題もたくさんある。著者もいうように、その一番の問題は展示と子どもたちをつなぐエディケーターと呼ばれる専門職の養成が日本ではほとんどなされていないことである。

文部省もハンズ・オンという体験型・参加型展示の開発を全国の博物館に一昨年から予算化して呼びかけている。そうした意味でこの書は、博物館関係者にも学校教師にも参考になる良書である。

（小笠原 喜康）

る情報技術の利用に関して理解を深めることをねらう現職教師教育用の教材パッケージである。パッケージは、印刷教材「A Staff Development Pack」、ビデオテープ、CD-ROMからなり、ワークシヨップでは、背景資料として『未来の図書館』プロジェクトの最終報告書ほかも使用する。

- 2・対象
 学校図書館研究、図書館司書教育、学校におけるメディア利用と情報教育、視聴覚教育、教育工学などに関心をもつ高等教育関係者
- 3・期日
 平成十三年一月二十六日（金）
- 〇：四五〜一六：三〇
- 4・参加費 無料
- 5・申込締切
 二月二〇日（水）（ただし、定員になり次第締め切り）
- 6・案内のウェッブ・ページ
<http://www.nime.ac.jp/~saga/kenshu/future.html>
- 7・問合せ・申込み先
 〒二六二 〇〇一四 千葉市美浜区若葉二一 二二、メディア教育開発センター ネットワーク 課 研修担当係 鈴木または山田 電話〇

四三 二九八 三一〇七 メール：nizuki@nime.ac.jp

学 会 情 報
 二〇〇〇年度「日本教育工学会・冬の合宿研究会」

日本教育工学会では、「教育実践研究を支える。共同」のありかたを考える」をテーマに、平成十三年一月二七日（土）・二八日（日）の二日間、上越教育大学において次の要領で合宿研究会を開催する。

- 1・内容
 実践研究と研究体制、行政と企業との協力体制、地域と学校など、これからの教育実践研究を支えるための共同・協調のあり方について、事例を示しながら問題点や方向性を検討する。
- 2・問い合わせ
 日本教育工学会・電話〇三二五二一 二二三または、上越教育大学学校教育研究センター・小川氏 電話〇二五五 二五 六九二六

コンクール情報
 「第四四回日本紹介映画・ビデオコンクール」入賞作品

「第四四回日本紹介映画・ビデオコンクール」入賞作品

「メディアと生涯学習」笹井宏益・山本慶裕編著、玉川大学出版部、A五判、二七五頁、二〇〇〇年六月刊、二七〇〇円（税別）

二〇世紀最後の今年は、我が国のIT革命元年という声もある。ITは社会の構造のみならず、私たちの生活を変え、生涯学習のあり方をも変えようとしている。

ITがもたらす光と影については、さまざまなか所でさまざまなかたちで指摘されている。ITの発達と活用は抗すことができない時代の流れであるとするれば、どのようにITに接するべきか、どのように活用したら新たな生活や学習活動の創出につながるかなどを積極的に考えた方が得策である。

そのようなときに、メディアと社会の関係、メディアと人間の関係、メディア教育のあり方、生涯学習におけるメディア活用等について述べた本が出た。本書は『週刊教育資料』に連載されたものである。IT関係のメディアを中心にしつつも、本、新聞、ラジオ、テレビといった従来のメディアをも視野に入れ、学校、社会教育施



設および人々の生涯学習の中で活用されるメディアを幅広く取り上げ、論を展開している。

全体は四章構成で、「メディア環境を考える」、「メディアを活用する」、「日本のメディア教育」、「世界のメディア教育」となっている。「」はメディアが教育・学習システムに及ぼす影響と今後の課題等を扱い、「」はメディア別に活用の仕方と課題、「」および「」は日本と外国のメディア教育の現状と課題を扱っている。なお、本書でいうメディア教育とは、メディア・リテラシー等に関わってのメディア教育ばかりでなく、遠隔教育・学習等のメディアを活用した教育・学習をも含むものである。

付録に国内外の生涯学習関係のホームページが掲載されており、便利である。（浅井 経子）

（財）日本映画海外普及協会（社）映像文化製作者連盟主催による標記コンクールは「日本の姿を海外で紹介する優秀な短編映画及びビデオの選奨」を目的として毎年開催されている。今年度は三七七社四七本（うち海外二二社二四本）の応募があり、入賞作品が以下のように決まった。

- 金賞 「亜欧堂田善」日本語版、三三三ミリ、二八分、記録映画社／金山プロダクション企画・製作
- 銀賞 「時を越えて響くもの 日本のお土産、その多彩な世界を探る」日本語版、ビデオ、三五分、伝統的工芸品産業振興協会企画・NHKソフトウェア製作（外務大臣賞も受賞）

「The Country of Unfounded Hopes（神秘と希望の国）」ロシア語版、ビデオ、一三分、Erkin Nishanov監音・International Channel TV and Radio Company of Uzbekistan製作（ウズベキスタン）優秀作品賞

第一部門「BUILDING A BRIDGE TO THE FUTURE（未来への架け

橋）」英語版、ビデオ、二七分、外務省企画・NTV映像センター製作

第二部門「重要無形文化財 雅楽」英語版、ビデオ、五八分、下中記念財団企画・東京シネマ新社製作

第二部門「ZEN IN THE ART OF ARMI WRESTLING（腕相撲）」英語版、ビデオ、七分、Gary Bush監督・Gary Bush Zoom Productions製作（カナダ）

なお、一二月六日（水）、東京都港区東新橋の徳間ホールにおいて、入賞作品発表会及び表彰式が行われる。詳細は映像文化製作者連盟まで（電話〇三 三三〇一〇三三六）

短 信

東京書籍（株）代表取締役社長長の丁子惇氏は代表取締役会長に就任後任には河内義勝氏が就任した。

計 報

元新潟県視聴覚教育係長・全国視聴覚教育連盟創立期専門委員の佐藤嘉市氏は、去る一一月一日、逝去された。享年八九歳。